

【村松志保子と助産師顕彰会】 村松志保子は、明治・大正時代に医術の研鑽を深め産婆となり産婆育成に尽力し母子のために保健福祉的な慈善活動を展開されました。当会では、助産師（産婆）として、博愛精神に基づいた福祉活動や女性の地位向上のために活躍した村松志保子の功績を顕彰し、その精神と志に根ざした活動を現在実施している助産師、あるいは、過去に活躍した助産師（産婆）を表彰しています。そして、村松志保子の志を継承した活動を通じて地域社会に貢献することを目指しています。

令和元年度 第23回 村松志保子助産師顕彰会式典

会場：墨田区役所「リバーサイドホール」 日時：令和元年年7月8日 日曜日

来賓

墨田区 保健衛生担当次長 高橋宏幸様
公益社団法人日本助産師会副会長 安達久美子様
公益社団法人桶谷式母乳育児推進協会副会長 石川房子様



村松志保子賞（12名）

- ① 深見文代様 (地域母子保健への貢献) 和歌山県
- ② 岸田君子様 (地域母子保健への貢献) 和歌山県
- ③ 稲垣よしゑ様 (地域母子保健への貢献) 兵庫県
- ④ 和田さかゑ様 (地域母子保健への貢献) 兵庫県
- ⑤ 佐々木しゅう様 (地域母子保健への貢献) 兵庫県
- ⑥ 吉岡笑子様 (地域母子保健への貢献) 兵庫県
- ⑦ 稗田良子様 (地域母子保健への貢献) 山口県
- ⑧ 大野マス子様 (母乳育児支援) 福岡県
- ⑨ 森キミ子様 (母乳育児支援) 愛知県
- ⑩ 山本詩子様 (日本助産師会・地域母子保健への貢献) 神奈川県
- ⑪ 谷口初美様 (国際助産師交流・助産師教育への貢献) 福岡県
- ⑫ フランシス様 元ICM会長 (国際助産師交流への貢献) イギリス

特別賞（3名 1団体）

- ① 故 添田ヒロ様 (地域母子保健への貢献) 東京都
- ② 故 大平住子様 (地域母子保健への貢献) 大阪府
- ③ 故 柏 サカエ様 (地域母子保健への貢献) 大阪府
- ④ 一般社団法人岡山県助産師会様 (西日本豪雨災害母子支援への貢献) 岡山県

精励賞（2名）

- ① 高津三枝子様 (地域母子保健への貢献) 群馬県
- ② 星野キャサリン様 (母子保健への貢献) ニュージーランド



表彰状授与



受賞者の皆さまと記念撮影



加藤会長



岡本副会長

「日本助産師会の世田谷産後ケアセンター発足への思い」

山本詩子先生（山本助産院院長 前公益社団法人日本助産師会会長）

会長在任中の2018年、世田谷区より公益社団法人日本助産師会が委託を受け、4月から「世田谷区立産後ケアセンター（以下産後ケアセンター）」が運営開始となった。その申請から委託を受け、運営開始となるまでの経緯と想いを話してくださった。日本助産師会の申請理由として、公益で実施でき、会員1万人を有し（当時）病院施設・大学・行政・開業等あらゆる分野での会員構成と多岐にわたる人材の宝庫であること、安定したマンパワーの確保ができる、ケア資質の向上、産後ケアガイドライン作成に携わっていたこと、産後ケアのノウハウを保有、母子や妊産婦や身近にアプローチできる、開業助産師のアイデアを持つ、産後ケアに付随するオプション等を挙げられた。そして産後ケアを担うのは助産師、「これを獲得しないと日本中に産後ケアが広がらない」と、事業獲得への道のりがはじまった。産後ケアセンターは武蔵野看護大学から世田谷区に無償譲渡され、区は委託運営機関を9月にHP上で公募、10月に説明会があり約10組の参加があったそうだ。11月までに申請書類を提出し1次審査を通過、プレゼンテーションの運びとなった。プレゼンテーションでは、準備していた発表原稿は読まず思いのたけを精一杯アピールされたとのこと。運営受託に向けて膨大な時間と労力が費やされたことがうかがわれた。そしてみごと運営委託されたのである。しかし、喜びもつかの間、3か月余りという短期間で運営開始の準備をせざるを得ない状況となった。センター長のヘッドハンティング、就業助産師の働き方改革、従来の就業形態や業務内容の見直し等が行われ、まさに産みの苦しみである。さまざまな苦難を乗り越え無事4月に新しい産後ケアセンターが大きな産声をあげたのである。

山本先生の人柄もあるが、「この産後ケアセンター事業を必ずや助産師会の手で実行する!」という熱意が伝わり、お話にどんどん引き込まれこちら胸が熱くなった。

「産後ケアセンターはまだまだ課題もあるが、今後災害時の避難所としての役割を持つことや、ボランティア団体や関連機関と積極的に連携しながら動いていくということを夢に描いている」とも語られた。母子のために、そして女性のために、産後ケアセンターをモデルとして、産後ケアが全国に展開、拡大させたいという、強い願いが、込められていた。運営立ち上げには、短い時間では語りつくせない。携わった方々の多くのご努力とご苦労があったに違いない。改めて敬意を表します。



「モンゴル助産師会とのツイン・プロジェクトについて」

谷口初美先生（九州大学大学院医学研究院 保健学部門看護学分野 教授）

2011年ベトナムとのツインプロジェクトが開始された。ベトナム助産師会との意見交換や現状を知るべく現地に出向き情報収集し結果、運営資金の問題や乳幼児死亡率、妊産婦死亡率、帝王切開率も高く、分娩室ではプライバシーも守られない状況、また経済面での差も浮き彫りになった。まずは助産師や医師に妊娠中からの保健指導の重要性や日本におけるケアについて伝え、2013年には3名のベトナムの助産師日本の病院や助産院での研修受け入れを行った。ツインプロジェクトは3年で終了したが、いまだ交流は続いており、日本助産師会の協力のもと研修センターが設立され、日本で学んだケアが生かされているとのことである。モンゴルとのプロジェクト開始は2015年で、当時、南野智恵子先生の尽力により助産師会は設立されていたが、会長は医師であった。モンゴルは、1990年から10年間助産師は必要ないとのことで教育がなされず、その間妊産婦死亡率や、新生児死亡率が高くなった。これにより助産師の必要性が見直され助産師教育が再開された経緯がある。プロジェクトへの要望は研究で、ペレストロイカ以降、肥満妊婦の増加に伴い帝切率や産後出血量の増加もあり、その関係を解明したいということであった。そこでモンゴル助産師会組織強化とともに、21県でアンケート調査が実施され、肥満妊婦糖尿病や肥満が妊産婦死亡の大きな割合をしめることが判明した。その後妊婦肥満を予防するために助産師や母親たちに対しアクションリサーチが実施された。パンフレットを8万部作成し配布、スマホでも閲覧できるようにし、関連セミナーも半年間実施した。このことにより「肥満について認識がない」、「BMIという言葉さえ知らなかった」人たちが、パンフレットやスマホの情報を通し妊産婦が「肥満は出産によくない」等正確な情報が得られるとともに、助産師の信頼も高まり、助産師の保健指導などが実施されるようになった。そして現在も助産師会の組織強化が図られ、専門職としてのアイデンティティの向上、社会的地位の向上もアピールできているという。ICM大会や、ベトナムとモンゴルとのツインプロジェクトについて、多くの写真を織り交ぜながらお話くださった。



少女がお父様の買ってくださった地球儀を見て「こんな小さいところに私たちがいて海の向こうにも沢山の人が住んでいる」と広い世界に思いをはせ、

「人間の感情はみな同じ」ということを学び将来は世界との懸け橋になりたいと夢と希望をもった。お話を伺いながら、少女が夢を叶えていくサクセスストーリーを読んでいくような気分になった。そしてこう思った、

「母子ため、女性のためには助産師が立ち上がらなければ」という思いは全世界共通であり、国や人種が違って「助産師魂」というまさに熱い思いは同じなのだ!!。

◆オープニングレクチャーを視聴して

今年の学会は、助産師の神様が祀られている愛媛の地で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためWeb上でのインターネット学会として開催されました。インターネットがこれほど普及している現代ですが、私は初めてのWebでの学会参加でした。

まず初めにオープニングレクチャー『産婆の神様の地から～現代までうけつがれる助産～』です。高忍日賣神社宮司の後藤正宜様・当会副会長の岡本喜代子先生・まつやま助産院院長武智恵子様の三名がご登壇です。

後藤正宜様のお話は「神代から現代まで受け継がれる助産」でした。

『ご懐妊中の豊玉毘売命（とよたまひめのみこと）が船旅をしているとき急に産気づかれた。カニが産屋に入りお産に集中できなくなり苦しくて一心に神様に祈ると、高忍日賣大神様が天忍日女命・天忍人命・天忍男命を遣わされた。その際、お産を手助けされた天忍日女命が助産師の役割をした。出産には妊婦さんの不安がないように気を配り、安心できる環境を整えることが必要。その助産の考え方は神様から授けられ、産婆（助産師）の様々な経験から生じた知恵が加えられ改善され、現代に受け継がれてきているものである。神様のご加護を信じ、最善を尽くすことが大切。』という内容でした。

続いて、村松志保子助産師顕彰会副会長の岡本喜代子先生から「安産福運大祭と助産師の歴史」というテーマでお話がありました。

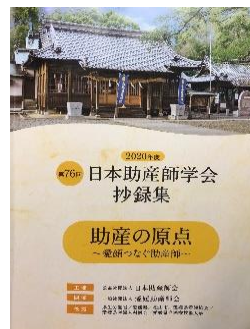
『明治時代に活躍した村松志保子の先駆的で自立した助産師（産婆）の活動があった。原島早智子氏によってその活躍は発掘されたが、その志は「村松志保子助産師顕彰会」に受け継がれている。古事記にでてくる産婆の神様の高忍日売さまが祭られている高忍日売神社で毎年3月8日14時に安産福運大祭を挙行している。

いのちを伝え、いのちをつなぐのが助産師。いのち＝生(い)きるための(の)知(ち)恵であり、助産師のいのちは助産師が生きるための知恵。その助産師の使命と助産ケア技術の真髄とは…』などの充実した内容でした。

そして、まつやま助産院院長武智恵子様は「先輩から受け継ぐ助産師会立まつやま助産院～昭和から平成・令和へ～」というテーマで、『助産師会立まつやま助産院の設立から現在に至るまでの経緯と様々な苦労や先輩が示された強い心と勇気・英知をもって助産を後輩に繋げたい』とお話がありました。

今年は、3月8日の安産福運大祭もイベントも中止となり寂しく思っていました、後藤宮司様や岡本先生のお話を拝聴しながら画像を見ていると、まるで愛媛の地にいるような嬉しい気持ちになりました。

来年の3月8日には皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。



◆堀内成子先生のご講演を視聴して

聖路加国際大学学長 堀内成子先生のご講演は「絆を育む：オキシトシン活性化研究」というテーマで、以下①②③のような結果が得られたとのことでした。

『①自然分娩を願う妊産婦は、陣痛発来がなく予定日超過になることや微弱陣痛や遷延分娩で病院に搬送されることを避けたいと願う。陣痛発来の前兆にオキシトシンの上昇がある。子宮のオキシトシン受容体のピークは39週である。乳頭刺激とオキシトシン値との関係を調べると、乳頭刺激を1日1時間、3日間自宅で行うことで、3日目30分後にオキシトシン値の有意な上昇がみられた。オキシトシン値が下がっても子宮収縮は続き72時間以内に陣痛が発来する。乳頭刺激の方法は、トイレを済ませリラックスできるところで右15分左15分右15分左15分行い、終わったらトイレで破水等を確認する。やり方は乳輪のところを深くではなく、乳頭の部分のみを縦や横に、1分間に69回マッサージする。また、陣痛の間歇期にいかにもリラックスして過ごせるかが分娩経過を左右すると考え、アロマセラピーとの関係も調べたが、クラリセージとラベンダーを併用すると有意にオキシトシン値は上昇した。』

『②妊娠後期から産褥早期のオキシトシンの推移を自然分娩と無痛分娩で比べた。自然分娩を経験した産婦は妊娠後期に上昇したオキシトシン値は、産後もその値が保持されていた。一方、無痛分娩では産後5日目にオキシトシンが有意に減少し、疲労感とマタニティブルーズ得点が増加していた。』

『③入眠を促進するメラトニンはオキシトシンと正比例した関係であることがわかってきた。夜に上がるメラトニン値は、妊娠後期には一層上昇する。夜は暗くして、PCや携帯の明かりを眠る前に見ない方がよい。光を遮断することでメラトニンもオキシトシンも上昇する。』

堀内先生のお話を拝聴して、分娩を扱う助産院を開業している私は、これから出産の予定の方には37週以降に連続3日間の乳頭刺激を是非やってみたいと思っています。自然の力を取り入れ、見守り寄り添いながら「出産した場所に戻ってきたい」と思えるような達成感の感じられるお産を経験してもらいたいと思いました。

初めてのWeb学会でしたが、「どこでも いつでも 全国から つながろう 愛媛へ」の言葉通り、共通の話題があれば、いつでもつながることができると感じました。

お知らせ

▶村松志保子先生のお墓参り・回向院等へのお参り

日時:令和3年1月中旬頃

※日程は決定次第ホームページに掲載いたします。

参加ご希望の方は、一週間前に下記顕彰会事務局までお問い合わせください。



▶令和2年度 第8回「母子と助産師の日」イベント

日時:令和3年3月8日(金) 10:00~15:00

場所:愛媛県愛媛県伊予郡松前町大字徳丸387

高忍日賣神社(たかおしひめじんじや)



◎高忍日賣神社のトイレ改修協力基金について

昨年より毎年お世話になっている高忍日賣神社を参拝されるみなさまのために、境内のトイレ改修協力基金として、昨年度から引き続きご寄附をお願いしております。

1口 1,000円

皆さま御協力よろしくお願ひ申し上げます。振込先は下記の会費振込先と同様です。

備考欄に「トイレ改修寄付金」と記載してください。

また大変恐縮ですが、振込手数料はご負担となる旨お許しください。

◎村松志保子助産師顕彰会ホームページを開設しています！是非アクセスしてみてください。

HPアドレス : <https://www.jyosansikensyukai-m-sihoko.com>



▶コラム

2020年の母子と助産師の日のイベントは中止でしたが、3月8日の午後、岡山から一人で車で高忍日賣神社まで出かけました。新型コロナウイルスの影響でお参りされている方は少なく、いつもの幟やポスター掲示もありませんでした。そんな中、もうすぐ卒業するのであろうと思われる5人の学生さんらしい方が、「ここに助産師の神様が祀られてるんだ！」「本当はここであるんだよね」「来年は絶対来ます！」などと話しながら参拝していました。この祭事を心待ちにし、必ず来よう！と思ってくれている皆さまの姿が励みになりました。

【お願い】

村松志保子助産師顕彰会は、会費や寄付金などで運営しています。より充実した活動を継続していくために、当会の趣旨や活動にご賛同して頂ける会員やご支援の寄付金を広く募っています。

現在ご活躍されている助産師や歴代のお産婆さんなどの情報もご連絡をお待ちしております。

また、会報誌「しほこの樹」へのお便りもぜひお寄せください。

「村松志保子助産師顕彰会」事務局

【お問い合わせ先・入会等について】

「村松志保子助産師顕彰会」事務局

住所：〒192-0914 東京都八王子市片倉町1181-5

電話・FAX : 042-635-7117 (岡本喜代子)

Eメール : otafuku-o@nifty.com.jp

【会費等振込先】

口座名：村松志保子助産師顕彰会

口座番号：郵便貯金 総合通帳

記号：10040

番号：97136531

入会金：5,000円 年会費：5,000円

